

種別	指定	名称・所在・時代・登録日	解説	写真
登録文化財	建造物	上野市上水道水源地送水機関室 うえのしじょうげすいどうすいげんちそうすいきかんしつ	昭和11年(1936)上野市に初めて上水道が布設(ふせつ)された時のもので、昭和30年代後半まで送水機関室として使用されました。鉄筋コンクリート造りの平屋建てですが、玄関上部のバルコニーなどのデザインから、外観上は二階建てのように見える造りとなっています。この送水機関室は昭和60年代まで使われていました。	
		小田町646 昭和 平成8年(1996)12月20日		
登録文化財	建造物	北泉家住宅主屋 (旧上野警察署庁舎) きたいずみけじゅうたくしゅおく (きゅううえのけいさつしよちようしゃ)	明治21年(1888)に建てられた旧上野警察署庁舎で、三重県内各地の警察庁舎のモデルとなったと言われています。木造平屋建、寄棟造の建物で、元は上野城内の東大手にあり、昭和13年(1938)に現在地に移築されました。入口には切妻屋根、縦長の上下窓には独特の小庇を取り付け、隅柱等とともに彩色が施されています。	
		上野丸之内1-2 明治 平成9年(1997)12月12日		
登録文化財	建造物	福岡醤油店 ふくおかしょうゆてん	付近一帯は、笠置山麓から湧き出る清流を利用し、江戸期には伊賀有数の酒の醸造地として知られていました。明治37年(1904)に醤油醸造所として建てられ、昭和28年(1953)に増築されています。木造平屋の建物内には醤油を絞るための「キリン圧搾機」が設置されました。	
		島ヶ原1330 明治 平成10年(1998)4月21日		
登録文化財	建造物	寺村家住宅 主屋 前蔵 てらむらけじゅうたく しゅおく まえぐら	元の両替商森川氏の居宅で、江戸後期に造られた上野城下町に残る最古の町屋と考えられています。角地に建ち、主屋は西を正面とした入母屋造、棧瓦葺、妻入りの建物で、表側を店舗スペースとし、その裏に居室を配しています。前蔵は主屋の南に棟を表通りに平行して建ち、江戸期の面影を良く残しています。	
		上野福居町3337-1 江戸 平成14年(2002)2月14日		

登録文化財	建造物	<p>上野文化センター</p> <p>うえのぶんかセンター</p> <p>上野中町3024 大正 平成15年(2003)12月20日</p>	<p>上野城下町の中心街に建つ木造三階建の商店建築で、大正11年(1922)に建てられました。当初は倉庫として使われていましたが、昭和40年(1965)から「上野文化センター」として趣味・教養の施設として使用されていました。外観は一階を花崗岩の石貼りとし、二階以上はモルタル塗りで、屋根は寄棟鉄板葺です。上野市街地の戦前の繁栄の様子を今に伝える貴重な建築物で、現在はカフェとして利活用されています。</p>	
登録文化財	建造物	<p>赤井家住宅 主屋 茶室 土蔵 長屋門 土塀</p> <p>あかいけじゅうたく しゅおく ちゃしつ どぞう ながやもん どべい</p> <p>上野忍町2491-1 江戸～明治 平成22年(2010)9月10日</p>	<p>中之立町通りに面して、桁行15m・梁間4.0m、木造平屋建、入母屋造棧瓦葺の長屋門が建てられ、その北側と土蔵を挟んで敷地南面が土塀で囲われていて、元の武家屋敷らしい歴史的な景観を形成しています。長屋門は北寄りに門口を構え、正面は彫子下見〈ささらこしたみ〉で上部を漆喰塗とし、南端に出格子窓を付けてた重厚な外観を有するものです。</p>	
登録文化財	建造物	<p>長谷園 大正館 登り窯</p> <p>ながたにえん たいしょうかん のぼりがま</p> <p>丸柱569 江戸～大正 平成23年(2011)10月28日</p>	<p>天保3年(1832)創業の伊賀焼窯元として知られる長谷製陶の旧事務所が大正館です。大正後期に建てられた木造平屋建の建物で、南正面入口には印象的な意匠のアーチ型庇に飾り窓が設けられています。登り窯は北に焚き口を有し、ほぼ真南直線状におよそ3寸勾配で15の燃烧室をもつ連房式登り窯で、後方の煙突まで全長約34mを測ります。</p>	
登録文化財	建造物	<p>いとう旅館本館</p> <p>いとうりょかんほんかん</p> <p>上野桑町1481 明治 平成23年(2011)10月28日</p>	<p>明治中期に開業した旭楼が始まりで、昭和33年(1958)に旅館となりました。北の建物・東の建物・西の建物からなり、東の建物は旭楼の建物がそのまま残っていて、二階の洗面施設のガラス面にも、「旭楼」の文字が確認されています。また、二階十帖間の天井板には、63枚の花鳥風月が描かれています。一方、西の建物にある茶室は、旭楼の屋号にちなんで「昇旭庵」と命名されています。</p>	

登録文化財	建造物	旅館薫楽荘 本館 蔵 塀及び門	明治中期に開業した芳真楼が始まりで、昭和33年(1958)に旅館となりました。背の高い黒壁塀と門が、旅館の歴史を感じさせる景観を醸し出しています。本館は間口12.8m、奥行14.8m、二階建、切妻屋根平入り建物です。前蔵は間口4.9m、奥行3.9m程、切妻屋根平入り二階建です。瓦はいずれも「横木瓜紋」が使われています。背の高い黒壁塀と門が、見越しの槇を演出しています。	
		りよかんくんらくそう ほんかん くら へいおよびもん 上野桑町1473 明治 平成23年(2011)10月28日		
登録文化財	建造物	一乃湯 本館 門	石柱の門は大正15年(昭和元年)(1926)に「草津湯」として開業した当時のままで、昭和25年(1950)に「一乃湯」として開業した際にネオン管が設置されました。唐破風の玄関は、柱上部に榎が組まれ、蛙股で虹梁を受けています。天井は格天井になっていて総じて社寺風の造りです。脱衣場は流木を加工した欄間や折上格天井など和風を凝らしていますが、浴場入口には花模様のテラコッタやアーチ状に色ガラスが嵌められ洋風を醸しているのとは対照的です。	
		いちのゆ ほんかん もん 上野西日南町1761他 大正 平成25年(2013)6月21日		
登録文化財	建造物	開化寺 観音堂 三重塔 門	開化寺は、小田村にあって水害に見舞われた森田山称念寺と疾追山福寿院が明治11年(1878)に合寺し、一方の福寿院跡に仮本堂が建立されたのに始まります。三重塔は、小田村の平井天神の別当寺浄瑠璃寺が廃寺となり、ここにあった元文4年(1739)建立の塔を曳家してその道中、開化寺の境内に移されました。現在の塔は当初の塔を模して大正2年(1913)に再建されたものです。観音堂は18世紀後半頃、門は19世紀初ごろ建立と想定されます。	
		かいかじ かんのだう さんじゅうのだう もん 小田町1077 江戸～大正 平成25年(2013)12月24日		
登録文化財	建造物	栄楽館 南棟 東棟 土蔵 門及び塀	栄楽館は江戸期の生薬問屋を改造し、明治6年(1873)に料亭「栄楽亭」として開業しました。かつては昭和ロマンを代表する野口雨情、中山晋平コンビも遊んだといわれていますが、昭和58年(1983)に廃業となった後は、主人宅として使用されていました。その後、市に寄贈され、改修の後、平成7年(1995)5月に生涯学習施設として開館しました。室内には扇や竹の意匠が見られ、網代天井など部屋ごとに異なる細工が施されています。	
		えいらくかん みなみとう ひがしとう どぞう もんおよびへい 上野相生町2842 明治 平成26年(2014)4月25日		

登録文化財	建造物	中森家住宅主屋・離れ・前蔵・蔵・門及び土塀 井戸屋形及び板塀	上席家老藤堂新七郎家の陪臣屋敷です。明治3年(1870)の藤堂新七郎家臣屋敷図に、現在地と同じ場所に「中森孫兵衛」の名前が確認できます。主屋・蔵・門・塀がまともに残り、上野城下における武家屋敷の形式を今に伝えます。主屋は質実な造りで、上野城下に残る他の武家屋敷の主屋より一回り小さく、離れは大正期に増築された洗練された落ち着いた佇まいの建物です。	
		なかもりけじゅうたくしゅおく はなれ まえぐら くら もんおよびど べい いどやかたおよびいたべい 上野玄蕃町195 江戸～昭和 平成26年(2014)12月19日		
登録文化財	建造物	長谷園主屋ほか11件	長谷園は、天保3年(1832)創業の伊賀焼窯元で、操業から170年余りの歴史を有します。平成23年10月に大正館と登り窯が国登録文化財となっていました。平成27年3月に主屋をはじめとする計12件の建造物が新たに国登録文化財となりました。これらは、伊賀焼の里としての丸柱の地で、周辺の山林の景観と相まって、陶器生産地としての風情を醸し出しています。	
		ながたにえん しゅおくほか11けん 丸柱569他 江戸～大正 平成27年(2015)3月26日		
登録文化財	建造物	料理旅館梅家	梅家は築後100年を経過する料理旅館で、伊賀街道の旧平田宿にあって、昔の佇まいを残す建物です。玄関戸に、はめ込まれたガラスには「旅館梅屋」の文字が摺りこまれ、本建物のシンボリックな意味合いを有します。また、造形美豊かな天女、鷹の鬼瓦が下屋の東西に配され、街道を行き交う人々を迎えるようでもあります。	
		りょうりりょかんうめや 平田374 明治～ 平成28年(2016)2月25日		